

令和4年5月

阜

あ お ぞ ら

月

第375号

鹿屋市青少年育成センター

鹿屋市共栄町20-1 TEL 31-1138
(鹿屋市教育委員会 生涯学習課)

「あいさつ」

鹿屋市立高隈小学校 校長 田中 浩

毎朝、校門に立って子どもたちの表情を見ると、それぞれ違いがあつていろいろ想像してしまいます。大きな声で明るく「校長先生、おはようございます。」とあいさつする子どもは4、5人とあったところでしょうか。普通に「おはようございまーす」と通り過ぎる子がほとんどです。中には、こちらから声をかけても、本当に小さな声で「ございます」しか聞こえない子どももいます。よく観察すると、あいさつには、家庭の雰囲気が出てくるような気がします。親といろいろな話をしたり、宿題をちゃんと済ませたりして登校する子どもは、自然と大きな声が出るような気がします。反対に、小さな声やあいさつができない子どもは、家庭でもあまり親と話をしなかったり、ゲームばかりしていたりするのではないかと心配になります。

「こんにちは」「ごめんなさい」「ありがとう」など、日常の様々な場面で使われるあいさつですが、なかなか習慣付かない子どももいます。子どもの性格もあるのかもしれませんが、それ以外に原因があるのかもしれませんが、ひょっとしたら、大人の方に原因があるかもしれないと思い、私自身、日常生活の中できちんとあいさつができていないか振り返ってみたいと考えます。こんなチェックがありますので、皆さんもやってみてください。

チェック1「自分が家に帰った時」

「ただいま」のあいさつはきちんとしていますか。子どもが帰宅すると、「お帰りなさい」と顔を見て言っていますか。時には忘れてしまっていることもあるかもしれません。まして「ただいまは？」とか催促したり、子どもの「ただいま」を待っていたりすることもあ

るかもしれません。

チェック2「外出している時」

スーパーやレストラン、コンビニなどで店員さんにしてもらったことは、自分は客だから当たり前と思って、「ありがとう」が言えていますか。言われた店員さんも嬉しくなると思います。それを見ている子どももきっとお礼を自然に言えるようになるような気がします。

チェック3「病院に行った時」

これは私もうっかりしている時があつて、名前を呼ばれた時に返事をしない時がありました。帰る時には「お大事に」と言われます。これも当たり前のように黙って帰ってしまいます。「ありがとうございました」の一言が言えない自分が情けなくなります。

チェック4「近所の人とすれ違った時」

顔はよく知っているのに、「こんにちは」の一言が出てこない時もあります。会釈だけで済ますこともあります。特に子どもと一緒にいた場合、明るくあいさつすることが必要だと思います。

チェック5「家族内でのあいさつ」

「おはよう」「いただきます」「ごちそうさま」「こんばんは」等は意外と家族内で使っていないこともあります。家族だからこそなおさらあいさつは大切にしなければならないと感じます。

どうだったでしょうか。私自身は反省しきりでした。これからも子どもたちだけに「あいさつをしましょう」と言わず、自分自身はできているか、ふり返りながら校門に立とうと思います。